

みんなでE.C.Oと



私たちが生活する上で、必ず発生するごみ。ごみ処理問題は、全国どこでも共通する課題で、本市も例外ではありません。今号は、ごみ問題について考えます。

ごみ処理に年間6億5千万リサイクルで減らせる経費

市内の家庭や事業所から排出されたごみは、豊里町の市クリーンセンターで処理しています。びん、缶、ペットボトルなど、資源になるものは、米山町の登米リサイクル事業協同組合の資源化協同施設に集められ、細分別などにより付加価値を高めて売却しています。

資源ごみを除く処分ごみの量は、年間約2万3千トです。これを収集・運搬、焼却などをするため、年間約6億5千万円が処分費用として使われています。

処分ごみのうち、可燃ごみの量は1万9千ト。この中には、資源ごみとして回収できる品目が混入しています。分別すればごみを減らせます。資源ごみは市が無料回収していますので、家計の負担を減らすこともできます。

また、可燃ごみを燃やすと、焼却灰が発生します。焼却灰は、クリーンセンター近くにあり一般廃棄物最終処分場に埋め立てています。1990年に建設された現在の最終処

分場は、本年3月末で98割まで埋め立てたため、現在第2最終処分場を建設しています。最終処分場は、10万立方メートルを超える体積が必要となり、それに見合った広大な敷地が必要となります。

まずは自分たちができることから始めてみる

ごみを焼却する際、地球温暖化の原因となる二酸化炭素が発生します。地球温暖化は、大雨による災害を発生させたり、動植物の生態系に悪影響を及ぼしたりするなど、さまざまな変化をもたらすといわれています。温暖化が進行すれば、さらに深刻な問題が発生するかもしれません。

ごみ減量は特別難しいことではありません。身近なところではごみは残さない、詰め替え商品にする、ごみと分別するなどの取り組みで減らせます。資源ごみも下図のように分別するだけです。

ごみの減量は地球温暖化対策になるだけでなく、ごみ処理施設の管理費や処分費を減らすことにもつながります。私たちができるごみの減量化に取り組んでみませんか。

主な資源ごみの出し方

プラスチック製ボトル容器

★出し方

- ・中身を使い切ってから。
- ・軽く水洗いをして。
- ・ポンプ類をはずして。
- ・ラベルはそのまま。

★対象となるプラスチック製ボトル容器

- ・台所用品
- ・風呂・トイレ用品
- ・洗面所・化粧品用品

★出せないもの

- ボトル容器以外のプラスチック容器
- 農薬・薬品等の容器
- 食品の容器

プラスチック製キャップ

★対象

ペットボトル、プラスチック製ボトル容器などのキャップ（ふた）が回収対象になります。

★出し方

- ①キャップは透明の袋に必ず入れて下さい。
- ②プラスチック製ボトル用コンテナ（ネット付）に入れて下さい。

★出せないもの

- プラスチックのポンプ類
- 汚れの付着しているキャップ
- 金属製キャップは缶類コンテナへ

ペットボトル

★出し方

- ・中身を使い切ってから。
- ・軽く水洗いして。
- ・キャップをはずして。
- ・ラベルはそのまま。

★対象となるPETのマークボトルだけです!!

スプレー缶

★出し方

- ・ガスを使い切ってから。
- ・屋外の風通しの良い所で穴を開けて。
- ・キャップと噴射口のプラスチックを外して。

※収集場所は、各地区所定のリサイクルステーションです。
 ※収集日などは、各地区で異なりますので、詳しくは、全世帯に配布されている「ごみ・リサイクル・し尿収集カレンダー」または、市ホームページ (<http://www.city.tome.miyagi.jp/kurashi/kankyo/syusyukarenda.html>) をご覧ください。